

鈴鹿西縁断層帯
木津川断層帯
南海トラフ地震

国の地震調査研究推進本部地震調査委員会の令和3年(2021年)1月1日を基準日とした調査によると、鈴鹿西縁断層帯では、マグニチュード7.6程度の地震が発生すると推定されています。今後30年以内の地震発生確率は、1%以下ですが、確率が小さくても決して地震が発生しないことを意味しません。また、木津川断層帯で推定されるマグニチュードは、7.3程度ですが、想定される被害は最も大きくなっています。さらに、南海トラフ地震では、マグニチュード8～9相当と推定され、今後30年以内の発生確率が70%～80%と、非常に高い確率となっています。

被害想定項目				鈴鹿西縁断層帯	木津川断層帯	南海トラフ地震
マグニチュード				7.6	7.3	(9.0)※
想定最大震度				7	7	6強
被害種別・項目・時期			単位			
建物被害	全壊棟数		棟	157	5,460	1,120
	半壊棟数			1,007	11,196	7,021
人的被害	死者数	冬 深夜	人	9	349	50
避難者	全避難者 (在宅避難者含む)	1週間後	人	2,295	33,023	16,449

※ (Mw:モーメントマグニチュード) 中規模以上の地震のエネルギーの大きさを示す指標

	断層 (断層の位置)	断層の 長さ	マグニチュード	想定最大 震度	地震発生 確率 (30年以内)
①	鈴鹿西縁断層帯 (米原市～ 甲賀市土山町)	44km	7.6	7	1%以下 (0.11)
②	頓宮断層 (甲賀市水口町～ 三重県伊賀市)	31km	7.3	6強	1%以下 (0.07)
③	大鳥居断層帯 (竜王町～ 大津市)	24km	7.1	6弱	1%以下 (0.07)
④	信楽断層帯 (湖南市～ 甲賀市信楽町)	16km	6.8	6弱	1%以下 (0.59)
⑤	木津川断層帯 (三重県伊賀市～ 京都府笠置町)	31km	7.3	7	ほぼ0%

[illegible]

甲賀市

南海トラフ
想定震源域

M＝モーメント
マグニチュード

〈過去事例〉

1854年 安政東海地震 M 8.6	1944年 昭和東南海地震 M 8.2
約32時間後 ↓	約2年後 ↓
M 8.7 1854年 安政東海地震	M 8.4 1946年 昭和南海地震

甲賀市

甲賀市役所

甲南地域市民センター

信楽地域市民センター

土山地域市民センター

甲賀地域市民センター

想定地震最大震度

- 震度7
- 震度6強
- 震度6弱
- 震度5強

この震度分布図で表示した震度は、地震の規模や震源の距離から予測した平均的な揺れの大きさであり、地震の発生の仕方によっては、揺れがこれよりも強くなったり、弱くなったりすることがあります。

地震が起きたら

地震発生時の時間経過別行動マニュアル

地震発生

最初の大きな揺れは約1分間

緊急地震速報

強い揺れ(震度5弱以上)が始まる数秒から数十秒前に、テレビやラジオ、市の音声放送端末、屋外拡声器やスマートフォンなどで「もうすぐ揺れること」を知らせてくれます。ただし、**震源に近い地域では、強い揺れに間に合わないことがあります。**



屋内にいた場合

- 戸建住宅…… ●落ち着いて、自分の身を守る。●火の始末はすばやく。●ドアや窓を開けて、逃げ道を確保する。
- 集合住宅…… ●ドアや窓を開けて避難口を確保する。
- 避難にエレベーターは絶対に使わない。炎と煙に巻き込まれないように階段を使って避難する。

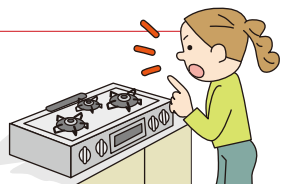
屋外にいた場合

- 路上…… ●その場に立ち止まらず、屋根のかから、看板などの落下物から頭をカバンなどで保護する。
- 建物から離れ、安全性の高い場所へ移動する。●ブロック塀や自動販売機などからはなれる。
- 倒れそうな電柱や垂れ下がった電線に近づかない。●車道に飛び出さない。
- 車を運転中…… ●ハンドルをしっかりと握り、徐々にスピードを落とし、緊急車両等の通行スペースを確保し、道路の左側に止め、エンジンを切る。
- 揺れがおさまるまで冷静に周囲の状況を確認して、カーラジオで情報を収集する。
- 避難が必要なときは、キーはつけたまま、ドアロックもしない。車検証などの貴重品を忘れずに持ち出し、徒歩で避難する。
- 山沿い・谷沿い…… ●地震により土砂災害が発生するおそれがあるため、安全な場所へ避難する。

1~2分

揺れがおさまったら

- 火元を確認。火が出たら、落ち着いて初期消火。
- 家族の安全を確認。倒れた家具の下敷きになっていないかを確認。
- 靴をはく。家の中はガラスの破片が散乱するため靴や厚手のスリッパをはく。●非常持出品をもつ。
- 避難するときは、屋根のかからの落下・ブロック塀の倒壊・自動販売機等の転倒に注意。



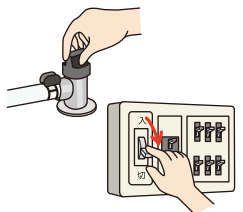
3分

みんなの無事を確認 火災の発生を防ぐ

- 隣近所に声をかけよう ●隣近所で助け合う。要配慮者の安全確保。
- ケガ人や生き埋めの人がいらないか確認。

出火防止

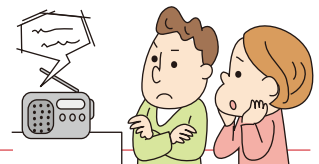
- 漏電・ガス漏れに注意。電気のブレーカーをおろす・ガスの元栓を閉める。



5分

テレビ・ラジオなどで正しい情報を

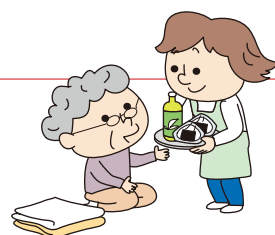
- 防災機関、自主防災組織の情報を確認。デマにまどわされないように。
- 避難時に車は極力使用しない。●電話は緊急連絡を優先する。



10分
数時間
3日

協力して消火活動、救出・救護活動を

- 水、食料は蓄えているものでまかなう。
最低限3日間(推奨1週間)の飲料水と食料の備蓄をしておく。
- 災害・被害情報の収集。●壊れた家に入らない。
- 近くの人への救出・救護。



地震によって想定される被害

●震度階級表

震度4	●ほとんどの人が驚く。 ●電灯などのつり下げ物が大きく揺れる。 ●すわりの悪い置物が、倒れることがある。		震度6弱	●立っていることが困難になる。 ●壁のタイルや窓ガラスが破損、落下することがある。 ●耐震性の低い木造建物は、かわらが落下したり、建物が傾いたりすることがある。倒れるものもある。	
震度5弱	●大半の人が、恐怖を覚え、物につかまりたいと感じる。 ●棚にある食器類や本が落ちることがある。 ●固定していない家具が移動することがあり、不安定なものは倒れることがある。		震度6強	●はわないと動くことができない。 ●耐震性の低い木造建物は、傾くものや倒れるものが多くなる。 ●がけ崩れが多発し、大規模な地すべりや山の崩壊が発生することがある。	
震度5強	●大半の人が物がつかまらなさと歩くことが難しい。 ●棚にある食器類や本は落ちるものが多くなる。 ●補強されていないブロック塀が崩れることがある。		震度7	●耐震性の高い木造建物でも、まれに傾くことがある。 ●耐震性の低い鉄筋コンクリート造の建物は、倒れるものが多くなる。 (例) 阪神淡路大震災、東日本大震災、熊本地震	